

## ケニア共和国話題集

### 【国名】

- ケニアという国名の由来については諸説あるが、ケニア山（注）に由来すると言われている。

（注）現地の人々が「キリニャガ（神の山）」と呼んだ山を、ヨーロッパ人が「ケニア山」と呼ぶようになったと言われている。



### 【国旗】

- 国旗の黒はケニア人を、赤は独立闘争のために流した血を、緑は森林と果てしなく続くサバンナを、白は平和を、中央の槍と盾は英軍からの独立闘争の際に使用した槍と盾を象徴。



## 【歴史】

- 紀元前2000年頃、アフリカ北部のクシティック系民族が東アフリカ地域に移住。1世紀頃までには季節風を利用してアラブ商人が頻繁に訪れるようになった。アラブ商人との交易では、東アフリカから奴隷、象牙、サイの角、亀の甲羅、手工業製品等が、アラビア半島・湾岸諸国から槍、短刀、ガラス製品、葡萄酒、麦等が輸出された。
- 1498年以降、ポルトガル人が訪れるようになる、東アフリカ海岸地域におけるイスラム勢力の支配力が低下し、モンバサの港はポルトガル船のための重要な拠点になった。17世紀にはオマーンとポルトガルの間で攻防が繰り返され、18世紀にはオマーンの影響力が強まり、奴隷貿易や象牙貿易が活発に行われた。
- 19世紀に欧米列強による進出が進む中、英国が優勢となり1884～1885年のベ

ルリン会議を経て英領東アフリカが誕生。

1902年、現在のケニア全域が英国保護領となり、1920年には直轄植民地となった。

- 第二次世界大戦後、1952年にケニア土地自由軍（K L F A）が植民地政府に対する独立闘争（マウマウ団の乱）を起こし、この反乱を契機に独立の機運が高まり、1963年に英国から独立した。翌1964年に共和制へ移行し、ケニア共和国が誕生した。

### 【スワヒリ語】

- ケニアの公用語はスワヒリ語、英語。各部族でも異なる言語を有する。
- スワヒリ語は、16世紀頃に東アフリカの沿岸地域（モンバサ、ダル・エス・サラーム、ザンジバル等）で当時の現地語とアラビア語が混成して成立した言語であり、現

在は東アフリカのリンガ・フランカとして、タンザニアを中心に、ケニア、ウガンダ、ブルンジ、ルワンダ、コンゴ（民）、コモロ、モザンビークで使用されている。また、2004年にはアフリカ起源の言語から唯一アフリカ連合（AU）の公用語として採択されている。

- スワヒリ語は、母音＋子音で発音することが多く、日本人にとって発音しやすい言語。同じ発音で日本語とは全く意味の異なる単語も多い（M a j i はスワヒリ語で水、K i s u はスワヒリ語でナイフ等）。

### 【女性が輝く社会】

- ケニアの女性の労働参加率は62%（世銀、2024年）と、男性（71%）。政治的な場面での活躍もめざましく、2003年の女性国会議員は18名（全体の8.1%）であったのに対し、2025年には101

名（全体の約25%）に増加。外務長官（外務大臣）は2013年から2022年にかけて、3代連続で女性が務めた。

- マーガレット・ケニヤッタ前大統領夫人やレイチェル・ルト大統領夫人は、ケニアにおける女性の社会進出を促す活動を積極的に展開。
- 2004年、長年にわたってアフリカ全域において、環境保護活動（「グリーンベルト運動」と呼ばれる植林活動）を行ってきた功績を認められ、環境・天然資源副大臣（当時）を務めていた故ワンガリ・マータイ氏がノーベル平和賞を受賞した。同氏はその後、2005年に京都議定書発効式典及び愛知万博開会式、2008年にTICAD IVに出席。日本語の「もったいない」精神に啓発され、「MOTTAINAI」キャンペーンを国際的に展開し、環境保全に関する意識啓発に貢献した（天皇陛下は

2005年、10年に東宮御所で御接見になった)。

- 一方、女性活動家に対する圧力も少なからず存在する他、特に地方では父権的な伝統も根強く、経済的に困窮する女性世帯や高いHIV感染率、早期妊娠と初等教育の断絶といった、ジェンダーの不平等は依然として残る。2008年に野口英世賞を受賞したミリアム・ウェレ氏は、地域レベルへの医療サービスの提供の実践面に焦点を当て、特に母子保健の促進、HIV/AIDSを抱えて生きる人々への差別の減少に貢献した。同人は、2022年ノーベル平和賞受賞候補者として名前が挙げられた。



マーガレット・ケニヤッタ大統領夫人



ワンガリ・マータイ氏



ミリアム・ウェレ氏

## 【経済】

- ケニアは東アフリカのゲートウェイ。周辺国と比較して整備されたインフラや東アフリカ最大の港であるモンバサ港を擁し、我が国も「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」推進に資する案件として積極的にモンバサ港開発を支援している。
- ケニアはアフリカ有数の日系企業拠点の一つであり、120社を超える日本企業が進出。
- 主要産業は農業（労働人口の32%、GDPの約21%）で、輸出は茶、園芸作物等が全体の約44%を占めている。

## 紅茶

- ケニアは世界有数の紅茶生産国として知られ、その生産量は世界第3位、世界の茶の輸出量の20%以上を占めるといわれる。高地（1,500m～2,700m）の沖積土で

栽培され、年間を通じて降雨量が均一なため高品質な茶ができる。

## コーヒー

- ケニアは世界の中でも高品質のアラビカ豆の生産・輸出で知られる。その秘密の一つは、1934年に設立されたコーヒー局。コーヒー局を中心に厳しい品質管理を行うことで、高い質のコーヒーを世界に届けている。

## 花

- ケニアの切り花生産は、1970年代にナイバシャ湖付近でカーネーションの生産が始まったことが契機。1980年代以降はバラ生産が急増し、1990年代にはカーネーションを抜いて主要品目となる。
- 農業部門において、花卉栽培は紅茶に次ぐ第2位の外貨獲得産業（年間7億700万ドル）であり、50万人を直接雇用し、200万人を間接的に雇用している。

- ケニアの花は、赤道直下で年間を通じて温暖で日照量にも恵まれた高冷地で栽培され、昼夜の温度差も大きいことから花の発色もよく、茎がしっかりしているのが特徴。赤道直下だからまっすぐ上に育つとの説もある。輸出される花の66%をバラが占め、日本のバラの輸入先のうち、ケニアは第1位（輸入バラの5割）。



### 【日本との経済協力関係】

- 2023年までの我が国の対ケニア経済協力実績は約7,838億円で、サブサハラ・アフリカの中で第1位。ABEイニシアティブ（アフリカの若者を日本に招き、日本の大学での修士号取得と日本企業などでの

インターンシップの機会を提供するプログラム)を通じた受け入れ実績は216名(2025年3月現在、アフリカ諸国からの参加者で最大)。これまでに派遣された青年海外協力隊隊員は1,812名(2025年3月現在、マラウイ、パラグアイに次いで全世界で第3位)。

- 主な対ケニア経済協力案件として、ジョモ・ケニヤッタ農工大学(設立・体制強化及び技術協力支援)、ナイロビ西部環状道路(2013年12月に完工)、ウゴンゴ道路拡幅計画(2020年4月にフェーズ2完工)、モンバサ港周辺道路開発計画、モンバサ・ゲート・ブリッジ建設計画、モンバサ経済特区(SEZ)開発計画、オルカリア地熱発電開発計画、ケニア中央医学研究所(本部施設建設を含む無償資金協力及び技術協力支援)等がある。

## 【対ケニア草の根無償資金協力】

- これまで、国内47郡（県に相当）全てで草の根無償資金協力を実施している。
- 支援の内容は、学校及びその寄宿施設等の建設、小児病棟の建設、果物加工工場の建設、養鶏センターの整備、浄化給水設備等の整備など多岐にわたる。
- 日本の小児科医である公文医師によって設立された障がい児支援を行うローカルNGO（シロアムの園）に対して、約1,900万円を供与し、2022年に障がい児のための総合ケアセンターが建設された。
- 2022年10月には、約1,700万円を供与し、ビクトリア湖の水を飲用水に改善することを可能とする浄化給水設備が設置された。

## 【観光】

- ケニアは東アフリカ観光の中心地であり、雄大な自然と野生動物を間近で見ることの出来るサファリ・ツアーが有名。ケニアには59か所の国立公園、国立保護区、動物保護区があり、中でも、マサイマラ国立保護区は野生動物の多さではケニアで一番。
  - また、キリマンジャロ山（注）の裾野に広がるアンボセリ国立公園は、象の生息地として有名である他、アーネスト・ヘミングウェイが「キリマンジャロの雪」を執筆した場所としても知られる。サファリの他にも、モンバサ等の沿岸部は、その温暖な気候と美しさからビーチ・リゾートとして知られている。
- （注）英国のビクトリア女王が孫であるドイツのヴィルヘルム2世にキリマンジャロ山を誕生日のプレゼントとして贈ったという逸話がある。

## 【スポーツ】

- ケニアは中・長距離陸上選手の宝庫として有名である。特に、マラソンは近年常に世界のトップレベルにあり、圧倒的強さと層の厚さを誇っている。
- 東京2020オリンピック・パラリンピックでは、福岡県久留米市で事前合宿を実施。同オリンピックではマラソンなどの陸上競技で計10（金4、銀4、銅2）のメダルを獲得し、同パラリンピックでは1つのメダル（銅）を獲得。
- 2022年3月の東京マラソンでは、東京オリンピック男子マラソン種目で金メダルを獲得したキプチョゲ選手が1位を獲得。また、女子も東京オリンピック女子マラソン種目で銀メダルを獲得したコスゲイ選手が1位を獲得し、男女ともにケニア人選手が優勝した。

- 2025年9月の東京世界陸上では、計11のメダルを獲得（金7、銀2、銅2）。米国に次ぐ総合2位となり、陸上の強さを改めて示した。

### 【ケニア料理】

- ケニアの代表的な主食はウガリと呼ばれる白トウモロコシの粉を湯がいて練ったものである。食べ方は片手で団子状にし、シチュー等と一緒に食べる。



- ケニアの名物料理としては、「ニヤマ・チョマ」（焼き肉、ニヤマはスワヒリ語で「肉」、チョマはスワヒリ語で「焼く」の意味）がある。山羊肉、牛肉が多い。焼き上がった肉の塊を細かく切り、塩をつけて食べるのが一般的。



- その他にも、トマトとタマネギを細かく刻んでライム等と和えた「カチュンバリ」と呼ばれるサラダ、様々な野菜や肉をたっぷりのスパイスが入ったトマトベースのスープで煮込む「ムチュジ」、ふかしたじゃがいもをつぶし、豆や緑黄野菜と混ぜる「ムキモ」、ケール料理の「スクマ・ウィキ」といった料理がある。



- モンバサ等の海岸地域では、シーフード（シーパーチ、伊勢エビ、カニ等）を、ライム、ココナッツ、コショウといった香辛料で調理することが多い。また、ビクトリア湖に近い西部では、ティラピア等の白身魚を食べることで有名。

（了）